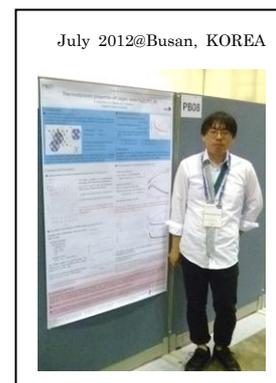


釜山旅行記: ICM2012 (19th International Conference on Magnetism with SCES 2012) 編

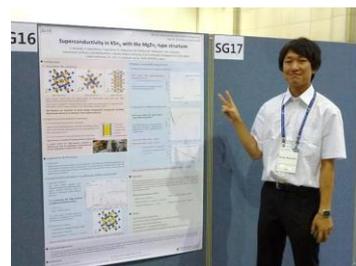
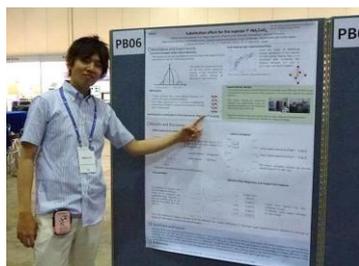


2012年度から研究室体制が若干変わり、今年度から研究室ホームページ活性化キャンペーンを行うとのことなので、その一環としてこのような記事を作成するに至った。今回は、釜山(韓国)で開催された国際会議: ICM2012@釜山編である。今回の ICM2012 には、筆者と博士前期課程の学生 2 人の計 3 名がポスター発表を行ってきた。学生の 2 人は M1 の伊藤君と宮崎君。彼らにとっては、国際会議デビューとなる。なおタイトルに「旅行記」と入っているが、けっして遊びに行ってきたわけではないのであしからず。



釜山は日本からお隣の国、韓国にある都市だけあって、成田空港から約 2 時間程度で行ける(淵野辺-成田空港間の移動よりも短い)。日本との時差もなく、ネットワーク環境さえあれば日本からのメールもリアルタイムでやってくる。逆に言えば、わりと油断のできない場所である。今回は大韓航空を利用した移動だったが、たった 2 時間という疲れのない移動時間に加え、この短い間に機内食も振る舞っていただいた。国際線経験が少ない我々にとっては、なんとも快適な空の旅である。釜山に到着後、向かったのが今回の国際会議開催会場 BEXCO。非常に綺麗で大きな会議場である。入り口に掲げられた横断幕が、学生 2 人にとっては否応なしに「ここはもう日本じゃねーんだ」という緊張感を与えたいしい。

ICM2012 は、会議名称にも入っているように「磁性(Magnetism)」に関する会議である。とはいっても、超伝導機構解明に関する報告もあり、我々の研究と完全に無関係な国際会議ではない。日頃研究室に籠って新超伝導体開発一辺倒な我々にしてみれば、新しい研究対象物質、いわゆるネタを仕入れるいい機会であり、見識の浅さを再認識し、知見を広げる絶好のチャンスである(と勝手に思っている)。今回は、7/8~



7/13 の会期で開催され、7/9 に私と伊藤君、まさかの最終日(7/13)のお昼過ぎが宮崎君の発表日となった。親御さんから期待を込めてこの国際会議に送り出されたとのことなので、学生 2 人についてふれておこう。プレゼンは当然英語。発表時間前は 2 人そろって「できればこの時間が早く終わってほしい」と言っていた伊藤・宮崎ペアであるが、実際にプレゼンが始まってみると、片言の英語と必死に覚えてきたプロシーディングスの中身を駆使して、(時折みられる笑顔が苦笑いか会話のキャッチボールが成立して生まれる笑かはわからないが)わりと楽しそうにプレゼンを行っていた。2 時間という短い発表時間であったが、異なる研究分野の研究者も含め引切り無しに聴講者がやってくるあたりは、さすが国際会議だと思う。後々聞いてみると、実際に楽しかったし、(本人たちが思っているだけかもしれないが)わりと英語での会話もできたとのこと。実に頼もしいし、なによりである。また週一で受講している英語プレゼン授業の講師の方への感謝を口にしていた姿を見ると、大学院の現行教育カリキュラムの成果なのかなとも思う。反省会と称した打ち上げの時にいろいろ話してみると、そこはやはりいつもとは畑が違う国際会議。自分の研究についても、多角的な視点から我々では盲点であり今後の研究方針に直結するような情報をいくつか手に入れることができたし、超伝導探索ではなかなか難しい共同研究のオファーもあった。また別に「国際会議場にいましたよ」とアピールするつもりもないのですが、発表の合間にはいわゆる“ちゃんと”オーラルやポスタープレゼンを聴講し、有益な情報収集も行ってきた。今後の超伝導開発戦略の修正点や、先生と新しい超伝導開発の候補物質として議論できそうな物質の情報を得ることができた。いろいろと「お土産」を持って帰れる点も含めて、なかなか充実した国際会議だった。「たまには研究室の外に出て発表して来い」という教訓にしたい。



最後に、短いながらも滞在した釜山ライフについて、差し障りない(遊んでいたと勘違いされない)程度に触れておこう。ちなみに写真の中にはあきらかに観光地っぽいのが一枚あるが、エクスカージョンの日の空き時間を使って行って来たものなので、どうか誤解しないでいただきたい。今回行った 3 人は、誰一人としてハングルが読めるわけではないが、日本人の観光客もよく訪れるためか、片言の日本語が随所で通じる(通じていたと思う)。地下鉄のキップ売り場は、ありがたいことに日本語表記もしてくれて、滞在にはまず支障はない。ご飯についても、いわゆる“メジャー”な韓国料理は日本でも浸透しているので、まだ若い(?) 我々にはほとんど困らない。こういう時、後輩と一緒にいくとガイドブックやネットを駆使して、おすすめのお店を探してくれるので楽だ。特に舌が肥えてない我々にとっては、どのお店で食べてもおいしい。何より、お財布に優しい価格で相当な量が提供されるのがうれしい。最終日に打ち上げと称して、「好きなだけお食べ」と焼肉をおごっても、財布の中身が悲惨なことにはならない。上司にとっては、お財布に無理なく尊厳が保てかつ見栄を張れる点で、釜山のお店屋さん、ごちそうさま & ありがとうございました。